

平成27年度富山県診療放射線技師会学術研修会

～チューリップの会・CT研究会合同研修会～報告書

新潟大学4年 米納佐和子

先日は研修会に参加させていただき、誠にありがとうございました。研修会の感想を以下の通りに報告させていただきます。

<基礎講座>

CT検査での患者接遇、ポジショニング等は実習で学んだことと同様であり、とてもいい復習となりました。また、寝台の高さによって同一患者でも全く体格が異なるように見えてしまうスカウト画像が得られ、CT-AECにも影響し、画質や被ばくに影響が出てしまうことを、実際に画像を比較して見るということは初めてでしたので、ポジショニングの重要性を強く認識できました。また、富山大学附属病院に導入された最新型のCT装置であるSOMATOM Forceでは、息止めがうまくできない患者さんや小児、じっとしてられない患者さんなど、従来では良好な画像が得られなかった症例でも動きのアーチファクトの少ない画像が得られることができるので、今後さらにCTの適応症例が増えるのではないかと思います。

<ディスカッション>

○造影剤使用時、腎機能の考慮

実習中では検査依頼票に記載されてあるクレアチニンの値で造影剤を用いても問題ないか判断していました。技師によってはポケットマニュアルのようなものを持っており、どの程度から造影剤の問題発生リスクがあるか等の表が描かれていました。eGFR基準値は今回の研修で初めて知りました。

○異性の患者に対する対応

実習中で放射線治療の乳房外照射の際、どんな男性技師に対しても嫌悪感を抱く女性患者を見ており、自分たちが想像もしていないほど異性の技師に抵抗感を持っている患者さんがいらっしゃるということを知りました。また、私は新潟市急患センターで一般・CT撮影の補助をしているのですが、新潟市医師会では普段男性技師しかいないため、日曜祝日などは新潟大学の放射線技術専攻女子学生に女性の更衣補助を主に頼んでいます。現状では難しいとは思いますが、男性も女性もモダリティごとにバランスよく配置することが理想だと思います。

○女性技師の結婚・出産・育児について

人数の少ない病院では、女性技師が結婚・出産・育児で仕事を制限したり、一時的でも現場を離れてしまったりすると、やはり人手不足が深刻になると思いますので、資格を持つ院生、パートなどを照会できるような人材派遣のツールがあればいいと素直に思いました。新潟では、新潟大学の院生はほとんど全員がどこかの病院の補助をしています。富山県では同じことをすることが難しいとは思いますが、他県等の放射線技術学科を出て、富山大学の医療系学部を再受験した方もいる可能性はありますし、金沢大学の院生、もしくは編入生も資格があると思いますので、協力を求めることもできるかもしれません。

<スキルアップ講座>

自分の知らなかった資格についても知る機会となりました。帰宅後調べてみると、自分のお世話になった方も資格を持っていることを知ったり、病院名の記載もされていてどの分野に力をいれている病院かということも知ったりできる機会となりました。

今回の研修会によって、実習では学ぶことのできなかつた富山県での放射線技術、女性技師としての役割や問題についても考えることができました。このような機会に参加させていただき、ありがとうございました。